

第4回調査検討部会における主な論点(モニタリング関係)

番号	区分	議論の内容	対応の方向性
1	データ推移の目標方向	データ推移の目標方向の設定が地目間で統一されていない感がある。無理に矢印を多くつける必要もないのではないか。	データ推移の目標方向の設定については、矢印の表記を減らすことで評価が難しくなることも考えられることから、基本的には前回提示した内容によることとした。 なお、基礎的な指標など一部の指標については、データ推移の目標方向の見直しを行った。
2	"	経営耕地面積や農業従事者数について、データ推移の目標方向が上向きになっているが、現実には減少傾向にあり水平ぐらいでもよいのでは。	(見直しをした指標) ・常住人口・世帯数(↗ から「-」へ) ・国土利用計画法に基づく土地取引届出件数(↗ から「-」へ) ・農業経営費(1戸あたり)(↘ から「-」へ)
3	"	矢印の向きについては、(モニタリングを実際に行っていく中で)違うということになればその時点で表記を変更すればよいのではないか。	
4	ゾーン別指標	県民から見ると自分たちの特徴的なゾーンの中で、県土利用をどのように見ていくのかという考え方もあり、2案(ゾーンの特徴を捉えた指標)でモニタリングを行っていくのがよいと思う。	ゾーン別のモニタリングについては、ゾーンの特徴を捉えた指標で見ていくことを基本とするが、全ゾーン共通で見ていく指標についても設定した。(以下、全ゾーン共通の指標) (農用地) ・農業従事者数 ・新規就農者数 ・耕作放棄地面積
5	"	ゾーンの特徴を捉えた指標で見ていくという考え方についてはよいと思うが、例えば耕作放棄地の面積などは県南部の方だけではなく、都市部でも問題になっているので、全ゾーンで比較できるようにしてもらえるとよい。	(森林) ・林業従事者数 ・保安林指定面積 (宅地) ・常住人口・世帯数 ・市街地面積
6	個別指標	農地の保全や利活用に関わる指標として、「農地・水・環境保全向上対策事業による集落協定締結面積」があるが、件数も加えてはどうか。	締結面積に加えて協定締結件数を加えた。